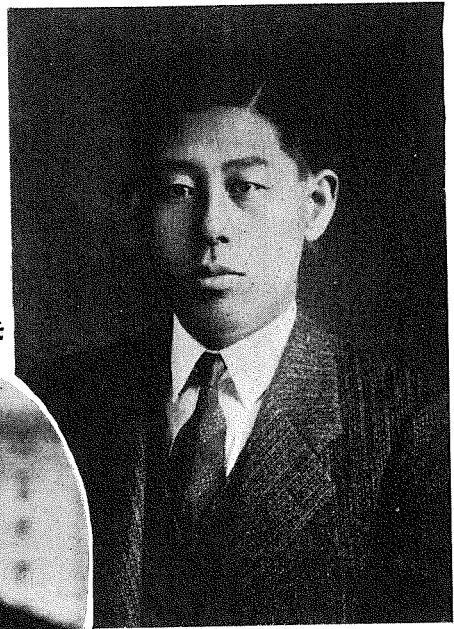


立 神 洋氏



土 谷 菊 雄 氏



本 莊 秀 一 氏

## 北支に活躍する 吾が土木技術官

曩に中國臨時政府の招聘を受けて先月末勇躍北支開發の先驅として出發した内務技師三浦七郎氏を首班とする四十六名の技術官は何れも内務省及び全國各府縣廳より選拔された河川、道路、港灣、都市計畫等の優秀なる青年技術者である。之等青年技術者の活躍は北支開發の上に重大な役割を果すばかりでなく土木日本の眞價を發揮するものとして其技術的手腕に非常な期待がかけられてゐる。

時恰も支那軍は天人共に許さざる暴擧を取てし遂に黃河の堤防を缺壞するに至つた。渦卷く濁水は家を没し人を呑んで河南平原も一朝にして水魔の蹂躪するところとなつて其慘狀は言語に絶するものがあると云ふ。

大黃河が缺壞した。早くも派遣技術官の活躍する時が來た。本莊、立神兩技師及び土谷

技手は現地に急行して修理對策に當つてゐるといふ。難工事ではあるが、治水工事にかけては多年の經驗を有し、腕に自信のある人々だから其修復は易々たることであらう。

本莊技師(40)は大正13年の京大工學部土木科の出身で内務省東京土木出張所に勤務し、後下關土木出張所に轉じ、昭和8年滿洲國に入り同國治水水利の調査計畫に多大の貢獻する所があつた。今回中國臨時政府の成立するに及びその招聘を受けて建設總署水利局參事となつた人で内地に於て富士川、大淀川等の改修工事に従事し、治水工事の權威者である。

立神技師(36)は昭和2年の京大工學部土木科出身で内務省東京土木出張所に勤務し、今回中國臨時政府の招聘を受けて建設總署水利局河川科長として去る五月末北支に向つた人である。荒川、鬼怒川、烏川等の改修工事を始め國道の改良工事にも従事し、治水工事は勿論道路工事の權威者であり、又明朗なるスポーツマンで工兵少尉である。

土谷技手(33)は昭和2年熊本高工土木科の出身で内務省土木局第二技術課に勤務してゐたが去る4月軍屬として北支に赴いた人で治水工事に深い經驗を有し、立神技師と同様工兵少尉である。